



2016年11月、三浦雄一郎国連WFP協会親善大使がラオスを訪問。2011年にACジャパンの支援で作られた学校給食プログラムの公共広告に登場したラオスの子どもたち(写真)に会ってきました。当時の広告画像は p.2 をご覧ください

## 飢餓のない世界をめざして

国連の食糧支援機関

# 国連WFPニュース

Jan. 2017 Vol.51

ナマズの養殖を通じた栄養支援と食育  
～三浦雄一郎さんがラオスを視察～

現金や電子マネーなどを使った新しい食糧支援





# ナマズの養殖を通じた栄養支援と食育 三浦雄一郎さんがラオスを視察



©M.Kuroyanagi

週に1度のナマズを使った給食。この日は唐揚げで提供。栄養満点の給食のおかげで、体力もつき、学力の向上にもつながる

## 国土の3分の2に不発弾が残る

国連WFP協会親善大使の三浦雄一郎さんが昨年11月、東南アジアのラオスを訪問しました。近年急成長を遂げる同国ですが、ベトナム戦争の際に落とされた爆弾のうち3割に当たる8千万発が、今もなお国土の3分の2に不発弾として残されているなど、負の遺産を抱えています。そして、5歳未満の子どもの3割以上が長期の栄養不良によって発育阻害の状態にあり、子どもへの栄養支援と同時に、栄養を十分に摂れる食習慣を母親たちが身につけることも必要とされています。

## 子どもと母親への食育の必要

訪問した11月はラオスの主食である米の収穫期でした。一面に広がる稲穂は一見すると豊かさを感じさせますが、貧しい家庭の多くがこの白米しか食べないという食生活の偏りが同国の課題です。ビタミンやミネラル、タンパク質等が不足し、子どもの発育阻害などにもつながり、年齢に対して身長が充分に伸びないほか、免疫力や知能の発達にも影響を与えます。発育阻害を予防

するため国連WFPでは、妊産婦と2

歳未満の乳幼児への栄養支援や栄養指導を行っており、適切な食事を通して子どもの健全な発育を支えています。2015年までの3年間で発育阻害の子どもの割合は44%から36%に減少しました。

## ナマズの養殖の効果

国連WFPはラオス国内の1500校で学校給食支援を行っています。加えて、今回訪れたサヤトン小学校では、試験的に給食で使う食材を校内で育てる試みが行われています。その一つがナマズの養殖。ため池でも育てることができるナマズは、週に1度給食に使われ、子どもたちの貴重なタンパク源となるほか、将来的には学校が余剰分を販売して学校給食のための食材を購入することも目指しています。ナマズの餌やりは子どもたちが交代で行っており、学校給食を充実させると同時に、子どもたちの食育にもつながっています。「給食はお代わりしたいくらいおいしかったし、『給食が出るようになった



機材提供：株式会社 ニコン



©ACジャパン

2011年の学校給食プログラムの公共広告の画像。当時は小学2年生の子どもたち。今回彼らは中学生になっており（表紙写真）、三浦さんが将来の夢を尋ねると、「農業の技術者になる」「大学に行きたい」等と話してくれました。

たから、小学校に通い始めたんだ」と話す子もいました」と三浦さん。  
**5年間で給食支援の卒業目指す**  
今後5年間の目標は、ラオス政府が、国連WFPが直接食糧を提供する給食支援から卒業し、給食を自力運営できるようにすることです。学校菜園を促進し、給食運営のノウハウを伝えるなどし、卒業に向けてサポートしていきます。ラオス事務所の担当者は「また5年後に来てください。さらに改善されたラオスをご覧ください。すよ」と明るい展望を語りました。



# 現金や電子マネーなどを使った新しい食糧支援

国連WFPの食糧支援の形が、近年、変わりつつあります。

穀物などの食糧そのものではなく、現金や電子マネー、食糧と引き換えられる紙の券などを配布し、受け取った人はそれを使い提携店で食糧を購入する、という新しい形での食糧支援が増えているのです。

## 好きな食材を、好きな時に

ジンバブエに住むベスターさん（写真上）。国連WFPから支給されたカードには、毎月、電子マネーが振り込まれます。「カードを使えば、好きな食材を好きな時に買えるのよ。干ばつ被害で生活が苦しかったので、本当に助かります」と言い、食品店で油などを買いました。

## 肉や野菜も買え、地域にもメリット

この支援が特に効果を発揮するのは、「食糧は豊富に売られているが、それを買う現金がない」という人が多くいる場合です。通常の食糧支援では、腐る心配があるため生鮮食料品は配給できませんが、現金等を使った支援では、野菜や果物、卵、乳製品、肉、魚などバラエティーに富んだ食品を、好みに応じて買うことができます。栄養バランスがとれるほか、厳しい生活の中で「我が家の味」を食べ、ほっと一息つくこともできます。

また、難民などを受け入れている地域の負担が増す中、この方式を採用すれば難民などが受入地の食品店で買い

物をすることになり、地域経済の活性化につながるというメリットがあります。ヨルダンやレバノンなどに住むシリア難民には、家庭の状況にに応じ、毎月1人あたり1500円、3000円程度の電子マネー等が支給され、受入国の経済に貢献しています。国連WFPにとっても、食糧の輸送・保管や、配給の事務コストが削減できます。

## 従来の支援手法と併用

このような現金等を使った支援の対象は、2009年には19カ国・110万人でしたが、2015年には54カ国・960万人にまで増えました。昨年は6億8千万ドル相当がこうした形で配布されています。

しかし、この新しい方法は国連WFPの食糧支援全体から見れば4分の1を占めるにすぎず、また食糧そのものを支給する従来の支援方法に取って代われない場合もしばしばあります。たとえば、食糧が市場に流通せず、物理的にない場合などは、現金や電子マネーではなく食糧

そのものを支給する方が実情に合っています。

また、現金等を使った支援を導入する場合は、現地の法律や経済、商業活動、金融制度、治安状況などに即して問題がないかどうか、慎重に調査が行われた上で実施されます。国連WFPは現金等を使った新しい支援手法を取り入れつつ、食糧を配る従来の支援手法と併用しながら、それぞれの場所に合った最も効果の高い支援活動を行っています。



©WFP/Tatenda Macheka

国連WFP支給のカードを手に、食品店で買い物をするベスターさん。ジンバブエにて



国連WFPがシリア難民に支給しているカード。毎月、電子マネーが送金される



©WFP/Ranak Martin

国連WFPから現金支援を受け取るバングラデシュの女性

## 国連 WFP 日本事務所代表 スティーブン・アンダーソンからのご挨拶

2017年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、国連 WFP 日本事務所は開設 20 周年を迎えました。日頃より国連 WFP を支えて下さっている皆様のおかげで、国連 WFP の活動も知られるようになり、支援の輪も広がってまいりました。日本事務所設立の翌年に発足した WFP 応援団もこの 20 年間、国連 WFP への支援を活発に呼び掛け続けて下さっています。皆様の継続的なご支援と、WFP 応援団をはじめとするボランティアの皆様の活動に、改めて深く感謝申し上げます。

今日、世界における人道ニーズの規模は過去最大であると言われています。中東・アフリカなどの絶えることのない紛争や、昨年エル・ニーニョ現象によって引き起こされた深刻な干ばつなどの自然災害により、多くの人が飢餓に苦しんでいます。全ての国連加盟国が採択した「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」では、「飢餓をゼロに」という目標が貧困削減に次ぎ 2 番目に掲げられています。私たちが力を合わせれば、飢餓のない世界は実現できるのです。そうした信念を持って、国連 WFP は政府・企業・市民社会などと多様な協力関係の構築に取り組んでいます。新しい年においても、引き続き皆様のお力添えをいただけるよう、努力していきたいと存じます。

2017年が皆様にとって素晴らしい一年になりますように。引き続き、国連 WFP をよろしくお願いいたします。



昨年の熊本支援の際、職員と共に熊本県大津町の  
家入敷町長(左)を訪問したアンダーソン代表(中央)

## 身近な国連 WFP 支援

普段の生活の中でご支援いただける方法を一部ご紹介します。

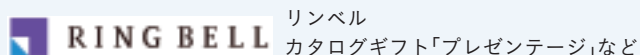
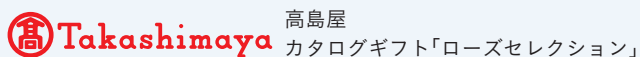
### ▶ポイントで寄付

買い物などで貯まったポイントで「国連 WFP への寄付」を選択。



### ▶チャリティギフトで寄付

カタログギフトなどの「選択商品」の 1 つにある「国連 WFP への寄付」に申し込む。



### ▶オンライン寄付サイト



「Tポイントによる募金」と「クレジットカードによる募金」の 2 種類。

## 「WFP エッセイコンテスト 2016」 全国から 1万4,659 通の応募！



『ぼくの私の ちからメシ』をテーマに、今年も WFP エッセイコンテストを実施。全 14,659 応募作品の中から最優秀賞の WFP 賞には、神奈川県カリタス小学校 4 年片岡璃穂さんの「命のスープ」が選ばれ、表彰式では竹下景子国連 WFP 協会親善大使による同作品の朗読が行われました。表彰式の様子は入賞作品 7 点と合わせて専用ウェブサイト ([www.wfpessay.jp/2016](http://www.wfpessay.jp/2016)) に掲載していますので是非ご覧ください。本コンテストでは、応募 1 作品につき給食 1 日分 (30 円) が 4 社の寄付協力企業よりそれぞれ寄付されるため、寄付金額は過去最高の 1,759,080 円となり、およそ 6 万人の子どもたちに給食を届けることができます。ご参加ご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。



World Food Programme

[wfp.org/jp](http://wfp.org/jp)

国連 WFP

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 6F

[www.wfp.org/jp](http://www.wfp.org/jp)

0120-496-819

受付時間 9:00 ~ 18:00 (通話料無料・年中無休)